



学部フェイスブック



学部インターネット公開講座



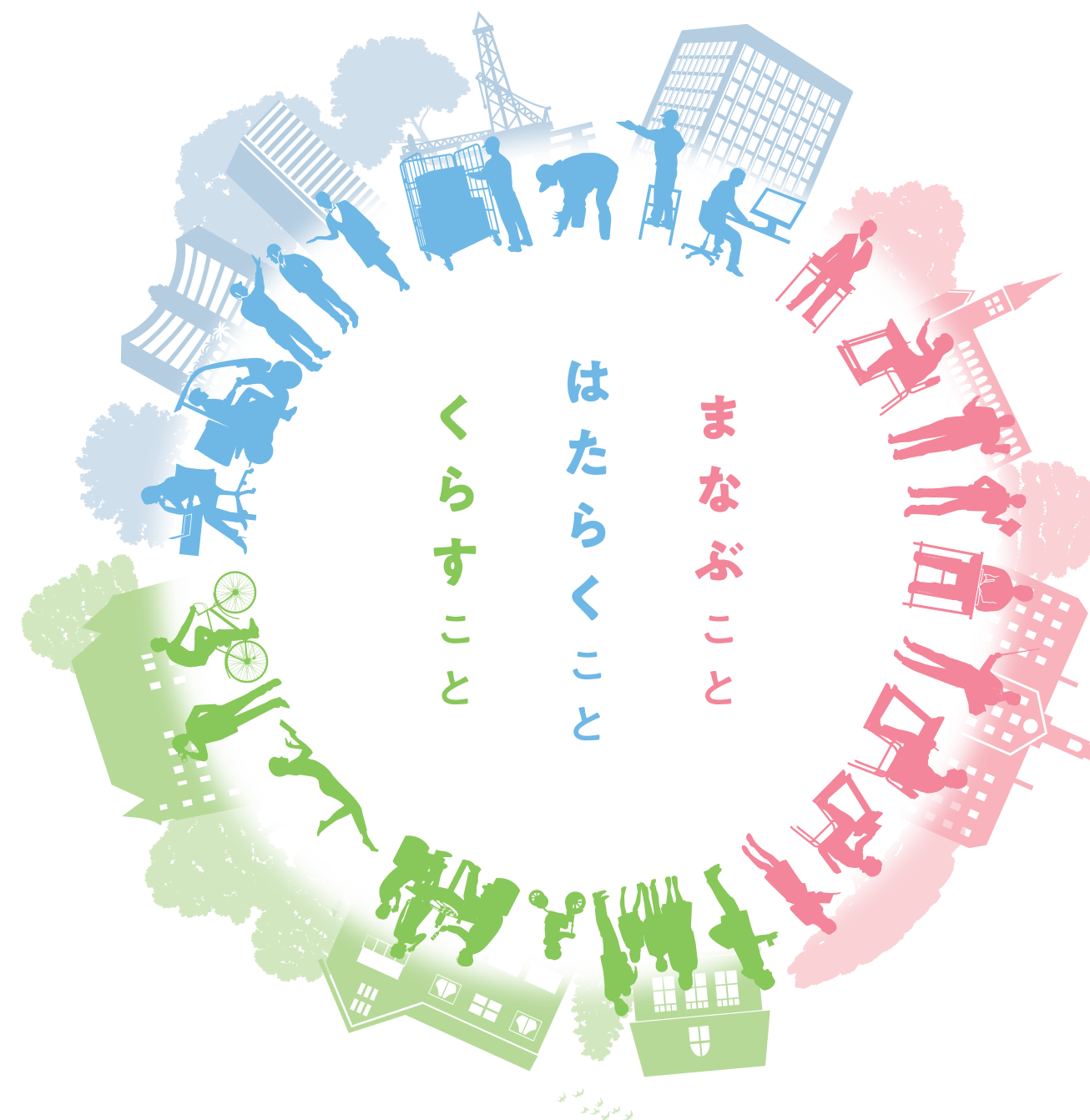
学部ホームページ



キャリアデザイン学部チャンネル

キャリアデザイン学部 2019

FACULTY OF LIFELONG LEARNING AND CAREER STUDIES



【法政大学 入試情報サイト】

この学部では、多様な入試のかたち(一般入試、大学入試センター試験、推薦入試、特別入試など)を用意しています。自分に合った入試に挑戦してください。



FACULTY OF LIFELONG LEARNING AND CAREER STUDIES
法政大学 キャリアデザイン学部

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
TEL 03-3264-9341 <http://www.hosei.ac.jp/>

変化に強くなれ

みなさんは 10年後の社会が 想像できますか。

世界はいま 急速に小さくなり そして同時に大きくなっています。

その変化にあわせて 私たちの **まなび方** **はたらき方** **くらし方** もまた 刻一刻と変化を求められています。

変化のスピードも 加速度的に高まっています。

「今の社会」に適應できる力は 10年後には 旧式になりはてる。

必要なのは 変化しつづける社会に対応できる力。

いや 自ら社会を変化させられる力です。

「既存の枠組み」が通用しなくなる未来に向けて **知のイノベーション** を。

キャリアデザイン学によって あなたは 変化に強くなる。

キャリア 人生を構成する3要素

LEARN



まなぶこと

発達・教育キャリア領域

教育学・発達心理学などをベースに、人間がどのように発達するか、どのように学ぶか、教育は社会にどう貢献するかを学びます。この領域を通じて、自ら生涯学びつづけながら、他者の学びとキャリア形成を支援する人材を育てます。

WORK



はたらくこと

ビジネスキャリア領域

経営学・労働社会学などをベースに、社会の産業や労働はどのように成立しているのか、そこで人はいかにしてはたらくのかを学びます。この領域を通じて、人間に対する洞察力を備え、経済社会の発展・変革に貢献できる人材を育てます。

LIVE



くらすこと

ライフキャリア領域

社会学・文化論などをベースに、身近なコミュニティからグローバル化する社会全体まで、私たちのくらしを支えるコミュニティがどのように成立しているのかを学びます。人とコミュニティを多面的に理解し、地域の発展を支援できる人材を育てます。

INDEX

- 03 学部長からのメッセージ
- 04 キャリアデザイン学部 3つの特徴
- 05 キャリアデザイン学部 4年間の学び
- 07 ●まなぶこと：発達・教育キャリア領域
- 09 ●はたらくこと：ビジネスキャリア領域
- 11 ●くらすこと：ライフキャリア領域
- 13 国内活動
- 14 海外活動
- 15 講義科目
- 16 学びと生活
- 17 卒業後のキャリアデザイン
- 19 卒業生からのメッセージ
- 20 私のキャリアデザイン
- 21 施設紹介

「自分」と向き合い「社会」を知り尽くし キャリアデザインを創出する

2003年、われわれは、これまで世の中に存在しなかった、「キャリアデザイン」という学部を創設しました。あれから十数年、本学部から社会に発信してきた「キャリアデザイン」は、法政大学のブランドのひとつとして大きく成長・発展してきました。なぜ、私たちは「キャリアデザイン」という学部を設立したのでしょうか。

1990年代になると、それまで経済成長を続けてきた日本は、「成熟社会」といわれるように低成長経済の社会へと移行してきました。景気が良かった時代には、社会の矛盾は、お金で解決することもできました。しかし、景気が悪くなると、様々な社会問題が浮きぼりになりました。たとえば、非正規雇用者が増加していることや、地域社会の衰退などもあります。こうした問題には、日本のような民主主義の社会では、「市民」が主体的に社会変化を造りだし、問題を解決していかなくてはなりません。しかしながら、現代を取り巻くたくさんの課題を見ると、私たちは何事も政府に任せてきてしまった、といえるのではないのでしょうか。

こうした社会背景を踏まえて、キャリアデザイン学部が教育目標とする「育てたい人材像」は、ひとつには、自らのキャリア(まなび方、はたらき方、くらし方)を主体的に開拓していくことのできる自律的/自立的な人づくりです。もうひとつは、他者のキャリア形成を支援していく

ことのできる専門性をもつ人づくりです。この二つの人間力を身につけることは、みなさんがこれからの時代を生きるための前提だと考えています。ビジネスマン、公務員、教師、起業家、キャリアカウンセラーや、マスコミ、情報・文化産業、国際ビジネスなど。この力は、将来どのような職業に就き、どのようなキャリアを形成しても、人間としての核(コア)となるものです。

現実の社会は、複雑な出来事や課題から成り立っているため、これまでのように、単一の専門領域から問題を解き明かすことは、しばしば困難になっています。だからこそ、本学部では、教育とビジネスとライフに関する幅広く深い学びを統合的に学べるカリキュラムを、皆さんに提供します。皆さんが自分の興味や関心に合わせて、自ら主体的にカリキュラムを選択し、複合領域を横断的に学び、自分なりの研究テーマを設けて、研究成果を出すことが、本学部では可能です。

キャリアデザイン学部は、これからの時代を開拓する「自分」づくりに挑戦しようとする人たちを歓迎します。



キャリアデザイン学部
学部長
武石 恵美子

キャリアデザイン学部 3つの特徴

1

3領域にまたがる 学び

私たちの^{キャリア}人生は、まなぶ、はたらく、くらす・生きるという3つの切り離しえない要素で構成されています。

人は生まれた瞬間からまなびはじめ、社会に出てはたらくながらもこのまなびは続きます。ですから、社会で通用する学び方が必要です。また、くらし方・生き方を無視したはたらき方、まなび方では、意味がありません。

キャリアデザイン(人生の(再)設計)を考えるためには、人生の3要素をバラバラに学ぶのではなく、それらがどう関連しているのかを理解しながら学ぶことが必要です。まなび方(教育学・心理学など)とはたらき方(経営学・労働社会学など)とくらし方・生き方(社会学・文化論など)とを総合的に考えることこそ、今の社会に求められている新しい学びです。



2

充実の インターンシップ

企業のグローバル化、終身雇用制度の解体、働き方改革。今、「はたらく」ことは、これまでにない社会変革の波にさらされています。

本学部では、すべての学生が、国内外の企業や官公庁、学校などさまざまな「はたらき」の場に出て、インターンシップ経験を積みます。2年次という早期の経験により、その後、さらにどのような体験を積み上げていくのか、計画的なキャリアデザインが可能です。また、インターンシップの前後にそれぞれ半年間かけて、はたらくことの意味の探求、職業観の形成、語学研修など、「はたらく」ための準備をととのえます。

はたらくことの難しさ、責任、そして希望と自信。インターンシップを通して、自分の「強み」を発見します。



3

ひとのキャリアを 支援する

キャリアデザイン。それは、高度経済成長期につくられた旧式の社会基盤をあてにできた、30年前の日本では、必要のない発想でした。しかし今、すべての人に、自分のキャリアをデザインすることが求められています。

ところが現在の日本では、キャリアデザイン学を専門に学べる環境は、まだ多くありません。多くの方は、キャリアデザインについて何も学ばないまま、社会に放り出されます。そこで、本学部で「ひとのキャリアを支援する」という専門性を身につけることが、社会への大きな貢献になります。キャリアカウンセリングや人的資源論、リーダーシップ論などの学びを経て、ひとのキャリアデザインを支援する「ひとの専門家」になるのです。



キャリアデザイン学部

4年間の学び

Curriculum Map

キャリアデザイン学部
3つのアプローチ

発達・教育キャリア領域

人間がどのように発達するか、どのように学ぶか、教育は社会にどのように貢献するかを学びます。この領域を通じて、自ら生涯学びつづけながら、他者の学びとキャリア形成を支援する人材を育てます。

- 教育と社会
- 学校教育と地域学習
- 発達と学習

ビジネスキャリア領域

社会の産業や労働はどのように成立しているのか、そこで人はいかにしてはたらくのかを学びます。この領域を通じて、人間に対する洞察力を備え、経済社会の発展・変革に貢献できる人材を育てます。

- 産業社会
- 集団・組織
- 個人・人間

ライフキャリア領域

身近なコミュニティからグローバル化する社会全体まで、私たちの暮らしを支えるコミュニティがどのように成立しているのかを学びます。人とコミュニティを多面的に理解し、地域の発展を支援できる人材を育てます。

- 多文化・グローバル社会
- 文化マネジメント
- 自己・他者・関係



※簡略化した図です。基幹科目は2年次以降も履修できます。 ※科目名は一部抜粋です。

3つの領域を相互に組み合わせ、理論と実践とをつなぎ合わせて学びます

1年次には、3領域を統合した「キャリアデザイン学入門」を学ぶとともに、各領域のうち2つ以上を選択し、その基礎を学びます。複数の専門を学ぶことで、学際的に学ぶと同時に、自分の興味関心を鋭く探っていきます。また1年次には、レポートや論文の書き方、ディスカッションの仕方といった「アカデミックスキル」の獲得と、研究調査を進める専門的手法とを学びます。

2年次には、自分の専攻領域を選択し、専門科目を学んでいきます。2年秋学期にスタートするゼミでは、卒業研究に向けて、少

人数制での密接な指導が受けられます。2年次からは、体験型の授業も始まります。半年間の綿密な事前指導を受けたうえでのインターンシップは、実施後さらに半年間の振り返りによって、専門科目としっかり結びつくものになります。

4年次の卒業論文では、キャリアデザインという学問全体の枠組みの中で、自分の専門的研究を全うします。

また、4年間を通じて、全学共通科目である「市ヶ谷基礎」を学び、大学生にふさわしい教養を身につけます。

卒業論文



まなぶこと

発達・教育キャリア領域

人間がどのように発達するか、どのように学ぶか、
教育は社会にどのように貢献するかを学びます。
この領域を通じて、自ら生涯学びつづけながら、
他者の学びとキャリア形成を支援する人材を育てます。



先輩からのメッセージ

生きるうえで皆が向き合う「教育」を幅広く学び 他者の学びを支援する

佐藤 祐樹 (3年・千葉県立東葛飾高校出身)



「教育」という言葉から何を連想しますか。私は中学のころから教員を目指していますが、高校で映像制作の魅力に惹かれ、教員以外の道も考えるようになりました。教員志望、だけど、教員になると決めたわけではない。そんな状態で「教育学部」を受験しても、四年間通えるのか。受験時、そう悩む私が出会ったのが、キャリアデザイン学部です。「発達・教育キャリア領域」では、学校という枠にとらわれず、広く「教育」を学べます。例えば、自分のこれまで

を振り返り、映像で表現して相手に伝えたり、生活保護受給者が精神的に自立できることを目的とした「支援のありかた」について考えたりと、一見「これも教育なの？」と思うことも学べます。「教育」は、教員になる人のための学問ではありません。生きていくうえで、誰もが「教育」と向き合っていくのです。

他者の生き方を学び、自分自身を知る。何が本当に学びたいことなのか気づく。この学部だからこそ、実現できることです。

「臨床教育学」
遠藤 野ゆり 准教授



■ 主な著作
『あたりまえを疑え!』
2014 新曜社(共著)
『エピソード教育臨床 生きづらさを描く質的研究』
2014 創元社(共著)
『虐待された子どもたちの自立』
2009 東京大学出版会(単著)

思春期のたくさんの「なんで？」を追求しています

中学生の時に読んだ本で、家族と暮らせない子どもたちの施設の存在を知り、「これをテーマに卒論を書きたい」と教育学部に進学、研究を続けて今に至ります。おとなに理解されなかったり友だち関係に疲れたり、「思春期の生きづらさ」が研究テーマです。具体的には、「なぜ学校に行けない?」「なんで恋がうまくいかない?」「どうして『親の愛』はこんなに重い?」「どうやって人を理解できるの?」「なぜかわいいわが子を虐待してしまうの?」「どうして空気が読めないの?」など、たくさんの「なんで？」を追求しています。

研究方法は2つ。1つはインタビューのナラティブ・分析。もう1つはエスノグラフィックケー

スタディ(現場に入り込み事例を研究する手法)。児童福祉施設や小・中・高校、フリースクールやシェルターなどの教育現場にボランティアとして17年関わってきました。悩んでいる人に「自分の言いたかったことはまさにこれ」と感じてもらえるような研究をすることが目標です。

研究を通じてわかったのは、さまざまな生きづらさの根っこに「しんどいのは私のせいではない」という思いがあること、「この人生は自分で選んだ」と思えば、苦しさから解放されることです。私たちは生まれる場所も時代も、何も選べません。この受け身の人生を能動的な選択にすることがまさに「キャリアデザイン」なのです。

PICK UP ゼミ

坂本ゼミ「異文化交流論」

坂本ゼミは毎年12月にカンボジアに行き、カンボジアの大学生と一緒に映像作品を作ります。そして現地の小学校を訪問し、日本の小学校との異文化交流の支援をしています。メディアを通してこうした国際交流をおこない、発展途上国の学習支援活動を継続的に実施しています。映像編集の力、メディアリテラシーの獲得、そして国際的な学習支援活動の視点と能力をつちかいます。



田澤ゼミ「発達心理学」

大学受験や就職活動のように進路が「移行する時期」には、キャリアについて考える機会が多くなります。田澤ゼミでは、このような「移行期の若者」について、生涯発達心理学や教育心理学の観点から研究しています。「問い」を探求し、文献を読み、調査をして、研究論文にまとめていきます。また、ワークショップ形式の学びを導入し、新たな発想や視点を得るプロセスも体験しています。



教員紹介



児美川 孝一郎 教授 Komikawa Koichiro
青年期教育 キャリア教育
教育という位相から、若者のキャリア形成とその支援の問題について考える。



坂本 旬 教授 Sakamoto Jun
メディア情報教育学 図書館情報学
メディアを活用した異文化探究学習を实践し、国際文化交流コーディネーターとしての能力を身につける。



笹川 孝一 教授 Sasagawa Koichi
生涯学習学 リテラシー論
さまざまな人のキャリアを時代と世界の中でとらえ、自分自身のキャリア形成と他の人々のキャリア支援を考える。



高野 良一 教授 Takano Ryoichi
教育行政論 学校改革論
学校づくりと、それを支援する教育行政機関やNPO、企業などの現場に触れ、教育や学校の抱える諸問題を探る。



田澤 実 准教授 Tazawa Minoru
生涯発達心理学 教育心理学
移行期をキーワードに、人間の生涯にわたる発達を、それぞれの場面での支援もあわせて考える。



筒井 美紀 教授 Tsutsui Miki
教育社会学 労働社会学
「こんな社会で生きていきたいなあ」——教育・労働・生活・政策にまたがる、あなたがやりたいテーマをとことんつき詰める。



寺崎 里水 准教授 Terasaki Satomi
教育社会学 学校社会学
学校にはなんのために行くのだろう。勉強するため？ 友達づくり？ 単なる人生の通過点？ 学校と人、社会との関わりについて考える。



廣川 進 教授 Hirokawa Susumu
キャリアカウンセリング 臨床心理学 生涯発達心理学
ひとと組織が生き生きと働き生きるために、また転機にあるひとを支援するためにメンタルとキャリアの統合的な視点から研究する。



松尾 知明 教授 Matsuo Tomoaki
多文化教育・カリキュラム論
多文化共生と教育をテーマに、差異と共いかに生きていくのかを追究する教育のあり方について考察する。



はたらくこと

ビジネスキャリア領域

社会の産業や労働はどのように成立しているのか、
そこで人はいかにしてはたらくのかを学びます。
この領域を通じて、人間に対する洞察力を備え、
経済社会の発展・変革に貢献できる人材を育てます。

先輩からのメッセージ

異なる分野も「もっと知りたい」と思うように

原 侑里衣 (4年・新潟県立十日町高校出身)



高校3年生の時には、やりたい仕事や夢はなかったけれど、興味があつた教育学と、同時に幅広い分野も勉強してみたいという思いから、この学部を受験し、入学しました。2年生の前期まで、「発達・教育キャリア領域」の授業を多く取っていましたが、授業の選択の幅が広く、今まで触れてこなかったことについて学び、知識を得たことによって、異なる分野も「もっと知りたい」と思うようになりました。結果として、私は現在、「ビジネスキャリア領域」の

ゼミに所属し、ワークライフバランス、女性のはたらき方について研究しています。こうした自分の経験を振り返ってみると、「これは興味が無い、自分には必要ない」と最初から壁を作り、取捨選択してしまうことはもったいないと思います。いろいろなことに挑戦しながら、自分は何がやりたいのか、自分には何が合うのかを、その時々で考え抜いて軸を作ること、これからの人生で選択を迫られた時に必ず役立ちます。

「マーケティング」
酒井 理 教授



■主な著作

『サービス業のマーケティング戦略』
2015 中央経済社(共著)
『サービス産業の構造とマーケティング』
2006 中央経済社(共著)

社会を良くしていくサービスやモノを生み出すことを考える学問です

学生時代は、研究者になりたいと考えていませんでした。東京都庁で中小企業のコンサルティングに関わるうちに、徐々にマーケティングに興味を持つようになりました。組織に属さずとも生きていける力を身につけたいと思い、店舗の売り上げを予測する方法などを開発するようになり、社会と研究の繋がりを実感しました。そこから研究がとても面白くなりました。

マーケティングは、私たちの社会を良くしていくサービスやモノを生み出すことを考える学問です。新しく提供されるサービスやモノによって、社会が大きく変わっていきます。例えば、大学にわざわざ出向かなくてもインターネットで良質な教育が提供できるような新しいサービスが

あれば、より豊かな社会になるかもしれません。

研究方法は、将来の変化を予測することを重視しています。例えば、モノのインターネット化(Internet of Things)、人工知能によって私たちの生活がどのように変化するのか、企業や行政がどのように対応すればいいのかを考えています。私たちの未来のために、自分の研究が少しでも役立てばいいと思っています。

キャリアデザインは、自分で自分の未来を描き、自分の道を切り開いていくことです。自分がどう生きるかを考える時に、社会の変化を知らずにはられません。マーケティングの考え方は、キャリアデザインそのものです。みなさん自身のパーソナルブランディングを可能にします。

PICK UP ゼミ

梅崎ゼミ「地域マネジメント論」

地元の神楽坂などを対象に、地域マネジメントを研究しています。自分たちの人生や仕事、街の歴史をどのように考えているか、自身の言葉で語られることを集約していくオーラル・ヒストリー(口述の歴史)という研究方法を用います。イベントに参加しながら多くの人々の仕事や人生の「語り」を集め、キャリアデザインと地域のつながりを探求しています。



坂爪ゼミ「組織心理学」

坂爪ゼミでは、働く人に関するトピックスを幅広く検討していきます。働くことに対する不安や疑問を学生目線で捉え、インタビューや調査を通じて、理解し対応策を考えていきます。また、ゼミ生全員で定期的にディベート大会を行い、学年間の交流を図ると同時に、就職にむけた模擬面接も外部講師の方をお呼びして実施しています。



教員紹介



上西 充子 教授

Uenishi Mitsuho

労働問題 職業能力開発

若者が学校を出て職業へと入っていく、その移行の過程の諸問題と初期の職業キャリアについて考える。



梅崎 修 教授

Umezaki Osamu

労働経済学 キャリア管理論 オーラルヒストリー

組織を支える人々がどのように働いてきたのか、それぞれの「仕事の自分史」を掘り起こす。



木村 琢磨 教授

Kimura Takuma

組織行動論 戦略経営論

企業経営の観点から、会社の業績を向上させるための経営戦略と人材マネジメントについて考える。



坂爪 洋美 教授

Sakazume Hiromi

産業・組織心理学 人的資源管理論

働くことは充実感やストレスをもたらす。働く人々にとって望ましい職場のあり方を、心理学の立場から考える。



佐藤 厚 教授

Sato Atsushi

産業社会学 人的資源管理論

組織とヒトのニーズのマッチングを人的資源管理とキャリア形成のあり方に注目しながら考える。



武石 恵美子 教授

Takeishi Emiko

人的資源管理論 女性労働論

社会の変化や政策を視野に入れ、仕事と生活のバランスを重視したキャリアデザインのあり方を考える。



中野 貴之 教授

Nakano Takayuki

会計学

会計情報を適切に利用・分析できる能力を身につけ、経済的現象を的確に把握できるようにすることを旨とする。



松浦 民恵 准教授

Matsuura Tamie

人的資源管理論 労働政策

社会、組織、個人の事情を、どう調整して最適地点に到達させるか、人事管理の仕組みや政策面から考える。



くらすこと

ライフキャリア領域

身近なコミュニティからグローバル化する社会全体まで、
私たちの暮らしを支えるコミュニティがどのように成立しているのかを学びます。
人とコミュニティを多面的に理解し、地域の発展を支援できる人材を育てます。



先輩からのメッセージ

人とコミュニティの関わりについて多様な切り口から実践的に学ぶ

岡田卓朗 (4年・東京都立つばさ総合高校出身)



カンボジアにて。右から2番目。

今の世の中はとても流れが激しく、自分の向かい先を見失いがちです。だからこそ、意志をもって主体的に世の中を生きるために必要なことや、進路で悩む人をサポートする方法を学びたいと思ったのが、この学部を選んだ理由です。この学部の魅力は、人の本質的な部分や教養的要素から、キャリア形成をする上で必要な技術まで、「実践の中で考える力」が鍛えられること。座学で終わらず自身で考えて行動することに醍醐味があります。私はゼミや授業を

通して「自分の頭で考え行動する」ことを学び、1年間、カンボジアでインターンシップすることを選びました。ライフキャリア領域では、「人」と人の集団である「コミュニティ」の関わりに目を向けています。これは、社会的動物である人の根本であり、他領域にも関わる部分ですから、学んでいて飽きません。社会学的視点、家族学など、コミュニティの中にある人について多様な切り口からライフデザインを考えることは、とてもおもしろいですよ。

「社会学 社会調査」
田中 研之輔 教授



■ 主な著作
『先生はおしえてくれない大学のトリセツ』
2017 ちくまプリマー新書(単著)
『走らないヨター ネット南国の組織エスノグラフィー』
2016 法律文化社(共著)
『都市に刻む軌跡 ースケートボーダーのエスノグラフィー』
2016 新曜社(単著)

人びとの行動と集団の関係性を解き明かす

家族、友達、恋人、先生。人は誰かとつながりながら生きています。そのつながりの強度によって様々な集団が形成されます。集団を対象に、人の生き方や働き方に関するライフキャリアの研究をしています。UC Berkeleyでの在外研究中には、メキシコ移民と一緒に2年間日雇い労働をしていたこともあります。

「人びとの行動と集団の関係性を解き明かす」というのが研究テーマです。「なぜそこに集まるのだろうか?」「その集団の中でどのような行動をしているのか」というシンプルな問いを突き詰め、他の集団との比較へと研究を進めています。

まずは、研究対象とする集団に私も身を置きます。これは フィールドワークという方法で、集団のリアルに迫るのに最適な方法です。より詳しい内容はインタビューをして調査します。集団の<中>に身をおき、行動と集団の関係性を一つ一つ読み解いていきます。

研究を進めるうちに、人びとは集団に規定されるだけでなく、集団をつくりかえていく行動の力を持っているということがわかりました。キャリアをデザインする行為とは、独りよがりの夢物語ではなく、集団内の関係性から紡ぎ出していく、きわめて集合的な営みののだといえるでしょう。

PICK UP ゼミ

荒川ゼミ「文化創成論」

荒川ゼミでは、文化やアートを「創造的なコミュニケーションの触媒」と捉え、まちづくりや地域活性化、ネット空間におけるコミュニティ形成などに活かす方法を探ります。毎年、フィールド調査を行ったり、アートプロジェクトを実践しています。2017年度は千代田区の防災フェスタで、親子で防災グッズを制作したり、アートをういたコミュニケーション育成のワークショップを実施しました。



佐藤(恵)ゼミ「社会学」

「社会学への招待：『常識を疑え!』」がテーマです。社会学は、常識を疑い相対化する実践を重視します。マイノリティ、被災者、犯罪被害者、失業者、帰国子女、etc…。私たちの生きる社会は多様で、狭い見識による「常識」では太刀打ちできません。自分のもの見方・考え方の幅を広げ、新たな気づき・学びを得る実践に取り組み、自分たちの常識を変えていく力を養います。



教員紹介



荒川 裕子 教授 Arakawa Yuhiko
西洋美術史 アートマネジメント論
アートの持つ豊かな創造性を学ぶとともに、文化やアートを活用した地域づくりなど、社会とアートの有機的な関わりを実践的に探求する。



趙 宏韓 教授 Chou Kouji
国際関係学 日中関係
現代中国と東アジアの政治・経済・文明を、人々の行動と相互の関係性に注目して研究する。



金山 喜昭 教授 Kanayama Yoshiaki
博物館学 博物館経営論
キャリアデザインによるまちづくり活動に参加し、歴史・文化と人々の暮らしと学びの関係を考える。



熊谷 智博 准教授 Kumagai Tomohiro
社会心理学、集団間紛争解決
社会との関わりから生じる心理過程を学び、現代社会において直面する様々な問題の原因と解決方法について研究する。



斎藤 嘉孝 教授 Saito Yoshitaka
家族社会学 社会調査
家族・子ども・結婚・親子等を鍵に、自らのキャリア、他者支援や職業生活、社会問題や国際比較等を考える。



佐藤 恵 教授 Sato Kei
地域社会学 社会調査
「社会学への招待：『常識を疑え!』」というテーマのもとで、自分のもの見方・考え方の幅を広げる実践を行う。



福井 令恵 准教授 Fukui Norie
地域研究(北アイルランド) 文化研究
<異なる>とされる人びとと、どのように暮らすのか、歴史・文化の関わりに注目し、社会の諸課題を明らかにしながら考える。



安田 節之 准教授 Yasuda Tomoyuki
コミュニティ心理学 プログラム評価論
超高齢社会で生じる多様なライフキャリアの課題について考え、課題解決のためのプログラムの開発・実施・評価の方法を学ぶ。

国内活動

国内でのインターンシップは、企業・学校・NPO・官公庁など多様な場で実践を積みます。

Domestic activities

キャリア体験学習(A/B)

企業での中・長期間のインターンシップを経験します。半年間の事前指導では職業観の習得やビジネスマナーの学習、インターンシップ先の開拓などをします。夏のインターンシップを終えて、秋以降、半年間の事後指導で活動の分析をします。インターンシップ先は国内と海外を選択します。



キャリア体験学習(C)

企業と共同で行うプロジェクト型の学習で、例えば、企業から提示されたテーマに沿って、課題抽出、情報収集、企画作成、提案、実施までの一連を行います。チームづくりやビジネスパートナーとの関わり方、スケジュール管理等、働くことにおいて必要なさまざまなスキルを、実体験を通じて体得することができます。



メディアリテラシー実習

映画監督を授業に招くなどして、メディア・リテラシーの基礎概念を学びながら、映像制作の技法を習得します。授業では、キャリア・ヒストリーをテーマにした取材映像を制作し、YouTubeを通じて社会に発信します。



キャリアサポート実習

高校生等にキャリア教育プログラムを実施します。学生は高校生等の意見を引き出したり、話し合いを円滑にするようにファシリテーターとして関わります。そのために、事前指導では傾聴やファシリテーションスキルを学びます。



地域学習支援

住民が自主的に地域づくりの学びを深めるのに必要な支援、コーディネートの役割などを学び、多文化教育、地域文化振興、コミュニティとメディア等に関する実践的な現場で実習をおこないます。学部独自の資格「地域学習支援士」の育成の中核となる授業です。



海外活動

海外でのインターンシップは、企業での体験だけでなく、現地での暮らし、ホームステイ先の家族とのコミュニケーション経験を積みます。

Overseas activities

キャリア体験学習(国際)

海外に約2週間滞在し、現地での文化や暮らしにふれ、「日常生活を送る」体験をします。食事や買い物等はもちろん、現地の言葉や歴史を学び、現地大学生との交流もはかれます。また、企業インターンシップを実施します。事前学習では半年間かけて、滞在先探し、現地の言葉の学習、インターンシップできる企業探しなどを行います。夏休みを利用して現地に赴き、帰国したのち、半年間かけて、各自が体験してきたことの意味を探求。2018年度は台湾(台北)、ベトナム(ホーチミン)に滞在します。



ホームレスの子どもたちの孤児院を運営するNPOでのインターンシップ



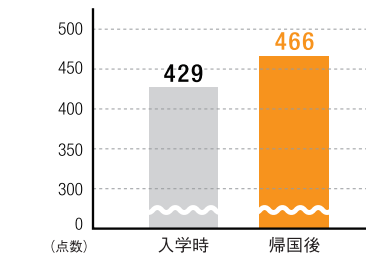
ホーチミン・戦争証跡博物館の見学

Study Abroad

海外の提携大学に留学し、約15週間の英語講座を受講できます。集中的に英語を学び、英語によるコミュニケーション能力を向上させるとともに、今後のキャリア形成の軸となる実践的英語スキルの取得を目指します。事前に半年間、留学に向けた英語講座を受講します。英語力の向上と同時に、参加メンバーの交流を深め、安心して留学先に向かいます。留学先はアデレード(オーストラリア)、オークランド(ニュージーランド)で、このプログラムに参加すると16単位が認定されます。

2017年度SA派遣学生

TOEFL® スコア平均点の変化



帰国後は
平均点
37点UP!

体験記 キャリア体験学習A(国際)

渡辺 慶 (3年)

授業では「働くとは何なのか?」という観点から、業界分析手法を習い、20年後の働き方についてグループディスカッションなどを行いました。この授業を経て、夏休みにシンガポールへ行き、現地のイベント企画会社のマーケティングに携わりました。平日は通常勤務で、退勤後や休日に、同僚やホームステイ先の家族と、観光や食事に行ったのも楽しかったです。初めての海外は感動と困難のオンパレードでした。実力のなさに絶望した日々も、それに打ち勝とうと必死に食らいついた日々も、すべてが今の僕を作っています。「意志の強さ」がどれだけ言葉を越えて人に伝わるのか実感したからこそ、自分のビジョンを心から信じ、意志を強く持って進み続けていきたいです。



ホストマザーと

体験記 Study Abroad(SAプログラム)

今野 弥生 (3年)

私がSAプログラムを選んだのは、1番サポートの充実した留学プログラムだからです。現地にいる間はもちろん、費用面や帰国後の授業面などもしっかりとサポートしてもらえます。現地では、自分のレベルに合ったクラスで、個性的な先生たちと、時にはゲームなども交えながら楽しく授業に参加しました。さすが多民族国家のオーストラリア、様々な国から来た多くの友達やイタリア人のホストマザーと、休日に一緒に出かけたりその国の言語を教えてもらったことは、多文化共生を自らの肌で感じることができる体験でした。SAでの4ヶ月間が、それまでとは違うモノの見方や考え方を与えてくれたのは確実です。帰国しても連絡を取っている友達も多く、来日する予定の友達もいて、私のSAはこれからも日本で続いています。



クラスでクリスマスピクニック。右端上から2番目

多様な内容に高い専門性の講義科目

体験型の授業は充実感があり、学んだ実感を抱きやすいものです。けれどそれだけでは、満足感で終わってしまい、本当の力になりません。体験で得たことを実力に変えていくためには、自分の体験の意味、意義を客観的に分析し、新たな活動に活かしていくための知識や分析力が必要になります。本学部では、3領域それぞれについての、また領域を横断する内容の、専門性の高い

多様な内容の講義科目を開講しています。これらの授業で得た知識が体験型授業の実践の質を高めるだけでなく、体験型授業で得られた充実感や体感をもとに、今度は講義内容の理解が深まります。このように、実践知と学問知が相互に循環・融合しながら高め合い深め合う仕掛けが、本学部の授業には組み込まれています。

学部独自の特徴的な科目

キャリア研究調査法

質問紙(アンケート)などを用いて収集される数値データの分析法を「量的調査」で、インタビューなどで収集される言語データの分析法を「質的調査」で学びます。1年秋学期に基礎を、2年春学期には1クラス20人の少人数制の授業で専門技術を学び、データを用いたレポートの作成やゼミでの卒業論文の執筆が行えるようになります。



キャリアモデル・ケーススタディ

毎回様々な場で活躍するゲスト・スピーカーを招き、ゲスト自身のこれまでのキャリア変遷や職業観などを講演してもらいます。単に企業で働くことだけでなく、地域や家庭との関わり方や、生涯学習の進め方など、生の声を多面的に聞くことにより、はたらくことの実態を深く理解することができるようになります。



🍌 私のおすすめ授業

学校論(キャリア教育)
(児美川孝一郎担当)



山本 雅樹 (4年)

キャリア教育の概念や必要とされる背景などを学び、日本のキャリア教育の問題点について、グループワークを交えながら考察します。小学校から大学まで、私達はみんな、まさにキャリア教育を受ける訳ですが、その仕組みや意図について理解することで、この学びは最大化されるはず。すべての人に受けてほしい授業です!

戦略経営論
(木村琢磨担当)



中嶋 海斗 (4年)

企業における経営戦略をさまざまな情報に基づいて分析し、理解します。また、その経営戦略がどのようなプロセスで形成され、採用されたのか、さらに、その経営戦略を実行するためにどのような課題を克服する必要があるのか、などを考えます。具体的な企業の事例を取り上げて詳しく学ぶことで、生きた社会の現実を分かりやすく学ぶことができます。

家族論
(斎藤嘉孝担当)



高橋 友香 (4年)

親と子どもの関係や、男女が交際から結婚生活に至るまでの過程などを学習します。家族の良い側面だけでなく、DVや育児放棄などの家族間で起きるトラブル、離婚やひとり親家庭などについても、統計や映像を用いながら学びます。自分自身の生活に身近なテーマを扱うため、興味を持てる部分が多く、改めて人との繋がりについて考えることのできる授業です。



私のカリキュラム

勝山 彰彦 (4年)

My curriculum

私は入学当初から3つの領域の中でもビジネスキャリアに興味があり、その領域を集中して学ぼうと考えていました。しかしそれは非常にもったいないことだと、今では思っています。3つの領域はそれぞれに面白さがあり、講義を受けてみて初めてその楽しさに気付くことができました。興味が湧いたら、領域に関係なく飛び込んでみるべき

だと思います。

1つの領域に早くから絞り切ってしまうのではなく、初めは3つの領域の教養を広く身につけることで、今まで知らなかった魅力的な学びに出会うチャンスが広がります。そして専攻を選択し、1つの領域を深く学んでいくことで自分の武器となる専門性を身につけることができます。



【履修例】ビジネスキャリアをメインで専攻しつつ、ライフキャリアを副専攻。

1年次	2年次	3年次	4年次
横断領域(キャリアデザイン学)			
ビジネス(基礎)	ゼミ		卒業論
ライフ(基礎)	ビジネス(展開)		
発達・教育(基礎・展開)	ライフ(展開)		
市ヶ谷基礎(リベラルアーツ)			



私のキャンパスライフ

大久保 遥 (2年)

My campus life



学生会実行委員として主催した夏祭り。左から2番目

私は将来、教育関係の職に就きたいため、発達・教育領域の授業を中心に履修を組んでいます。空きコマや昼休みは、友人と昼食を食べたり、雑談をしたりして過ごしていました。授業によっては課題や予習が出されるため、この時間を活用し、書き慣れないレポートに取り組んでいました。私が、大学生になってから始めた活動

は2つあります。1つ目は、学友会主催行事実行委員会の一員として主に新入生歓迎祭・夏祭り・自主法政祭の運営を行うこと、2つ目はブリッジワン・スタディサポートのメンバーとして、提携している都立高校で生徒たちの学習支援などを行うことです。人と関わることや縁の下の力持ちとして働くことが好きなので、全力で励んでいます。

【時間割例】2017年春学期(1年次)

	月	火	水	木	金	土
1	英語1-I		ドイツ語1-I	東洋史I	教育の制度・経営	
2		英語2-I		キャリアモデルケーススタディ	法学(日本国憲法)	
3	キャリアデザイン学入門	教育原理	基礎ゼミ	ブリッジワン・スタディサポート		13:30~ 実行委員会 事務局会議
4	発達・教育キャリア入門C	発達・教育キャリア入門A	16:00~19:00 卒業した高校で チューターとして勤務 (学習支援・進路相談)	(都立高校での学習・ キャリア支援ボランティア)	ドイツ語2-I	
5	社会学I				情報処理演習	
6		5-6限:企画局会議				
7						

空き時間は昼食を食べたり、レポート課題を行ったり、友人と雑談をしていました。どの授業でも定期的に課題が出ていたので、慣れないレポート課題をこなすのに必死でした。

4年間の学びを活かし 卒業後の人生を 設計しましょう

「まなぶ」を支える仕事

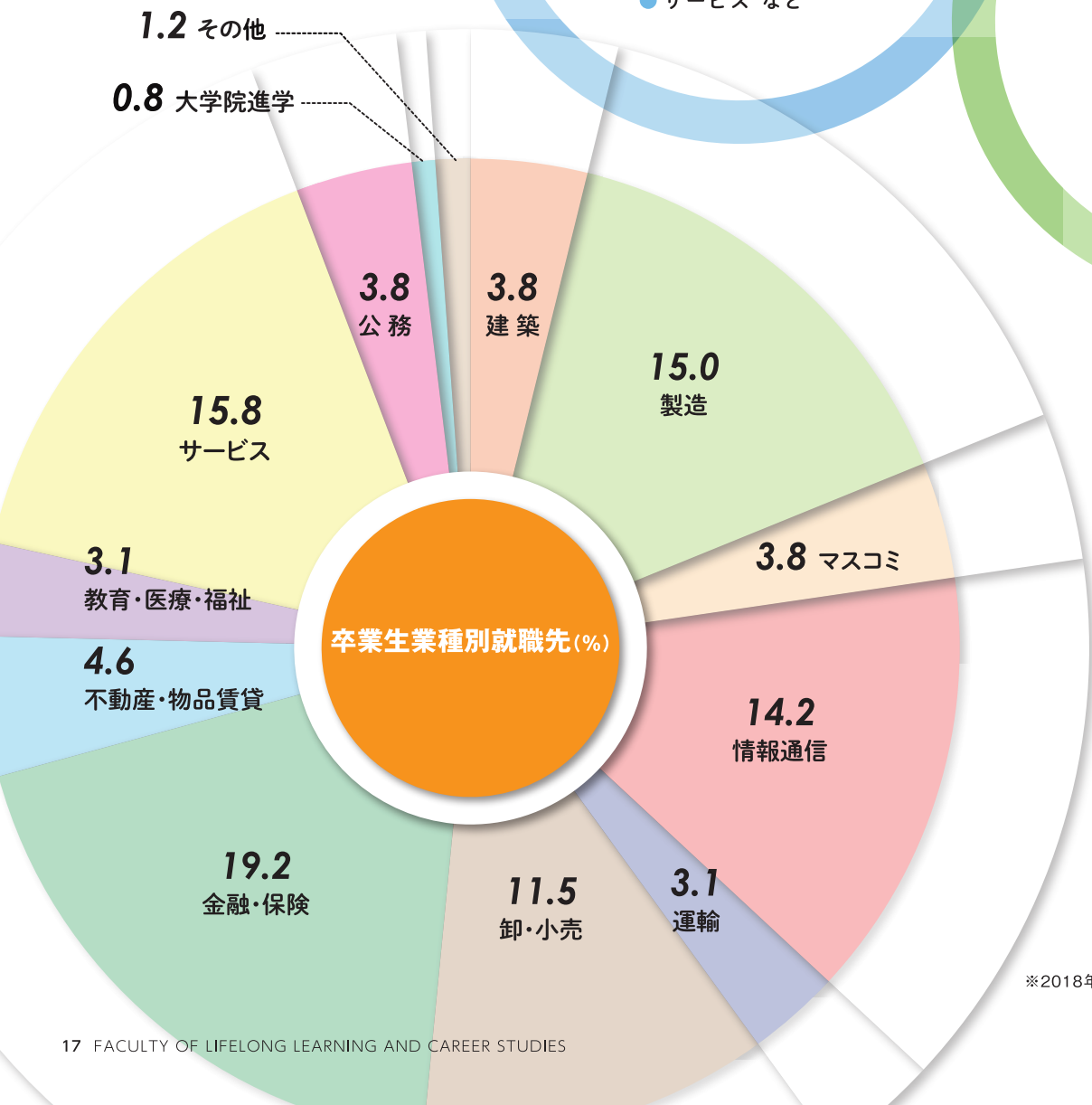
- 教員
- 教育産業企業のスタッフ
- 図書館司書 など

「はたらく」を支える仕事

- キャリアコンサルタント
- 情報通信
- サービス など

「くらす」を支える仕事

- 公務員
- 建設・不動産
- 金融・保険 など



※2018年3月卒業生の業種別就職先(連報値)

キャリアサポート体制

充実したアドバイザー陣

キャリアデザイン学部専任の5名のアドバイザーが履修相談から就職活動までをサポートします。

キャリアアップ奨励金制度

本学部の趣旨に合致する資格試験の受験や講座の受講料を補助します。ファイナンシャル・プランニング技能検定、簿記検定、秘書技能検定などが対象です。

キャリアセンター(全学)

就職活動の流れやインターンシップ支援、学内企業先行、OB/OGによる企業紹介などきめ細やかなキャリア支援が受けられます。

取得可能な資格

教員免許

- 中学校(一種) 社会科
- 高等学校(一種) 地理歴史科・公民科

中学・高校の社会科一種教員免許を取得できます。教員免許の取得には、文部科学省の定めた、教職に関する所定の科目を修了する必要があります。「はたらく」「くらす」ことについても学べる本学で教員免許を取得することは、社会全体の労働や生活をふまえて教育を論じられる教員になることを意味しています。とりわけ、近年必要性の増しているキャリア教育について高い専門性を備えた教員を養成しています。



櫻川 博樹 2016年3月卒業
(江戸川区立鹿本中学校教諭)

私が本学でよかったと感じることは、授業やその他の活動において、他学部の人よりも多くの「実践」を行うことができたことです。「キャリアサポート実習」やその他のピアサポート活動において、実際に多くの高校生と関わる機会を持ち、そこで高校生が「今」抱えている悩みや、高校生が持つ可能性を直に感じることができました。これは、私が教員を志す1つの大きなきっかけとなりましたし、またここでの経験のひとつひとつが、実際に教員として勤務していく上での大きな助けとなっています。

その他

- 社会教育主事
- 日本語教師
- 会計プロフェッション (公認会計士など会計に関する諸専門資格)
- ファイナンシャル・プランニング技能検定
- 簿記検定
- 秘書技能検定
- 図書館司書
- 司書教諭
- 博物館学芸員 など

卒業後の進路

建設	旭化成リフォーム、三和ホールディングス、JR東日本メカトロニクス、積水ハウス、大和ハウス工業、藤宮工務店、三菱地所ホーム、ローヤルエンジニアリング など
製造	味の素ヘルシーサプライ、アマダホールディングス、伊勢半、イナバインターナショナル、ウシオライティング、オークラ輸送機、沖電気工業、協和、金羊社、倉敷紡績、JFE鋼板、重松製作所、昭和産業、昭和真空、新光電気工業、セメダイン、大日本印刷、竹田印刷、東芝、凸版印刷、日研工業、日本電気、日本航空電子工業、日本電産、布目電機、パナソニック、原田、ファンケル、藤倉化成、富士ゼロックス、富士電機、フランスベッド、三菱電機、ユニバーサル製缶、ライオン、LIXIL、YKK AP など
マスコミ	IDCフロンティア、秋田朝日放送、アクシアエージェンシー、エイベックス・グループ・ホールディングス、Supership、cekai、東北新社、日本放送協会、北海道新聞社、メディアハウス など
情報通信	アイル、アポロン、アルファシステムズ、伊藤忠テクノソリューションズ、茨城計算センター、イー・エス・ディ、A1テック、NECネットエスアイ・サービス、NTTコムウェア、オービックビジネスコンサルタント、グッドパッチ、Global Mobility Service、KDDI、サイバーエージェント、サイバネットシステム、ジーシーシー、シーブアンドフォックス、JWEBGATE、ソフトバンク、TIS、ディップ、テンド、東日本電信電話、日立ソリューションズ、ファンコミュニケーションズ、ポピュラーソフト、マイナビ、三菱総研DCS、ユアソフト、リックソフト、ルーデル など
運輸	ANAウイングス、ANAエアポートサービス、SGムービング、全日本空輸、日本航空、日立物流 など
卸・小売	アイケイ、アベックス、因幡電機産業、エフ・イー・アネックス、エムティーアイ、神奈川くまざわ書店、カネコ種苗、かねまつ、クラウンジュエル、クリスピー・クリーム・ドーナツ・ジャパン、興和、ジェイアール東日本商事、システナ、千代田三菱電機機器販売、東武百貨店、TOTOエムテック、中川特殊鋼、バーガーキング・ジャパン、パンダイ、プラザクリエイト、マツモトキヨシ、丸井グループ、丸紅、三菱商事パッケージング、明治産業、ユニクロ、ヨドバシカメラ、良品計画 など
金融・保険	あいおいニッセイ同和損害保険、アコム、茨城県信用組合、SMBC日興証券、オリックス生命保険、かんぽ生命保険、クレディセゾン、群馬銀行、群馬県農業共済組合、警視庁職員信用組合、ジェーシービー、静岡中央銀行、しのめ信用金庫、ジャックス、住友生命保険、セブン&アイ・ホールディングス、損害保険ジャパン日本興亜、第一生命カードサービス、第一生命保険、大和証券、千葉銀行、東京海上日動火災保険、日本生命保険、農林中央金庫、東日本銀行、フィンテックグループ、北國銀行、みずほ銀行、みずほ証券、みずほフィナンシャルグループ、三井ダイレクト損害保険、三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、明治安田生命保険、横浜銀行、りそな銀行 など
不動産・物品賃貸	エース工機、イー・ディー・ワークス、学生情報センター、コスモスイニシア、コミュニティワン、住友不動産販売、タイムズモビリティネットワークス、野村不動産、芙蓉総合リース、プリンセススクウェア、三井不動産リアルティ など
教育・医療・福祉	湘南ゼミナール、タナベ・コーポレーション、東京医科大学病院、徳島県 教員、日本年金機構、法政大学第二中学・高等学校、LITALICO、リンクアカデミー など
サービス	アデコ、ANAビジネスソリューション、エン・ジャパン、キャリアリンク、共同エン지니어リング、キンコーズ・ジャパン、Gunosy、公認会計士坂倉事務所、ザイマックスアルファ、サウンズグッド、ジェイック、JTB首都圏、JTBグループ、スタッフサービス・ホールディングス、全国農業協同組合連合会山形県本部、総合キャリアグループ、電通マネジメントサービス、東武トップツアーズ、西村あさひ法律事務所、日本郵便、ニラク、パーソルキャリア、ハートソリューウェディング、パソナ、花川商事、ヒューマンタッチ、VOYAGE GROUP、三井不動産商業マネジメント、三菱商事フィナンシャルサービス、物語コーポレーション、横浜市体育協会、リクルートキャリア、ローカルイノベーション、ワールドストアパートナーズ など
公務	茨城県庁、国土交通省、新宿区役所、千葉市役所、国税庁 東京国税局、流山市役所、成田市役所、府中市役所、防衛省 陸上自衛隊、武蔵野市役所 など
大学院進学	青山学院大学大学院、千葉大学大学院 など

本学には夜間の社会人大学院「キャリアデザイン学研究所(キャリア教育・発達プログラムおよびビジネスキャリアプログラム)」があります

卒業生からのメッセージ

池谷 麻依 2015年3月 卒業 テレビ朝日 総合編成局 アナウンス部



大学時代に学んだ「人々の思い」を受け止めて自分の言葉で伝える

土曜日の朝6時から放送している番組「週刊ニュースリーダー」(一部地域を除く)で、天気中継やスタジオでの解説を担当しています。テレビでわかりやすく伝えるには、視覚に訴えることも大切です。番組で説明をする時にも、映像を効果的に流し、スタジオトークの流れを意識した簡潔な説明を心掛けています。

こういった現在の仕事では、大学時代の経験が大いに生きています。例えば、ゼミ長を務めた教育学のゼミでは、さまざまな意見を引き

出すため、ゼミ生への質問を工夫し、時間配分を考え進んだ経験。キャリアサポート実習で学んだファシリテーションスキル。また、ケーブルテレビ局でインターンシップをしたキャリア体験学習では、VTRに多くの人や時間がかけられ、放送へのこだわりを実感することからこそ、今、番組に関わった全ての方の思いを受け止めながら自分の言葉で伝えることに、よりやりがいを感じています。学生時代に様々な経験をさせていただいた皆様に感謝しています。

横倉 幹人 2011年3月 卒業 中小企業庁 事業環境部 財務課 税制係長

多面的な視点で物事を考えて「問題の本質は何か」を見極め、解決策を探る

経済産業省に入省後、日々変わりゆく日本経済と向き合い、山積する課題を解決するために日夜奮闘しています。より良い未来を子ども達世代に残すため、現状をどう変えればいいのか、どうすれば一歩前に進むのかということからあらゆる視点から考え、「問題の本質は何か」見極めることが求められますが、これはどんな組織においても必要とされるものだと思います。

私はキャリアデザイン学部で、多面的な視点で物事を考え、本質を見極め、解決策を探

るということを学べたことが今の業務に生きてるところであり、私自身かなりその点が役に立ったと考えているところです。

入学当初は教育に興味を持ち、教職課程を進んでいたところでしたが、ゼミなどでの幅広い学びの機会を通じ、自らの興味関心の在処を探り、好奇心に従っていくうちに、経済という面から日本を支える仕事に携わりたいと思うようになりました。そのきっかけを与えてくれた学部の先生方に感謝しています。



安田 幸江 2007年3月 卒業 武田薬品工業 GVBV ワクチン営業部福岡エリア所属



女性のキャリア形成についての学びを活かし、ワークライフバランスを重視

結婚、出産、育児という大きなライフイベントを迎える度に、特に女性は自ら戦略的に自身のキャリアを作っていくなければなりません。在学中に女性のキャリア形成について多様なモデルを学んだことを活かし、出産後は社内のファミリーケアという制度を活用して、9時半から17時までの時間短縮勤務で働き続けることを選択しました。営業品目もワクチンに限定し、ワクチンMRとしての専門性を高めていくことにより医療関係者からの信頼を得ることに加え、

武田薬品という立場からだけでなく、母親目線で看護師さんやドクターと接することができることが自身の強みであると感じています。

現在は2人目を出産し育児休業中ですが、自己研鑽に励み、復帰後は特に時間管理をしっかり行うことで、仕事と育児をうまく両立し、チャンスがあればリーダー職へも積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

私のキャリアデザイン

予想通りにはいかない人生を楽しむタフさを手に入れて

篠原 礼樹 (北海道・北広島高校出身)



1年次

「教師になりたい」と「発達・教育」に関心を持って入学。

実は第一志望の大学ではなく落ち込み気味でスタート。でも教師になりたいと思って発達・教育キャリア領域の授業を中心に履修したら、「教育学って、先生になりたい人のためだけの学問じゃない、奥が深い面白い!」と感動しました。と同時に、自分は実は教師には向いていなかったという自覚も。教育学部に行かなくて結果的によかった、と進路に納得し始めました。



2年次

- ・障害者や貧困の若者の自立支援のNPOに参加 (体験型選択必修科目・講義科目)
- ・離島の中学校での学習支援を実施(ゼミ)
- ・小学生に農業体験を提供するプロジェクトに参加(ゼミ)

専門科目が増え、障害者や貧困の若者の自立支援をするNPOにインターンシップに行き、教育現場の現実を目の当たりにしました。後期からは、「現場に出て学べ」がモットーのハードな遠藤ゼミを専攻。離島の中学校での泊まり込みの学習支援(年2回)や小学生への農業体験提供プロジェクトに参加するなど、現場感覚を鍛えられました。



3年次

- ・IT企業でのインターンシップ
- ・五つ星ホテルで「ホテルのスタッフ同士の支援」をフィールド調査(講義科目・ゼミ)

ビジネス領域の科目も履修するうちに、はたらく場での人の支援に関心が高まりました。そこで、どうせ学ぶなら「一流の現場を」と、都内の有名な五つ星ホテルで、研究のためのフィールド調査も兼ねたインターンシップ。後半からはIT企業での長期の調査兼インターンシップ(1年半)も始め、半分社会人のような生活を送りました。

4年次

- ・第39回法政大学懸賞論文入選
- ・企業でのスタッフ同士のユーモアを介した支援について卒業論文を執筆(ゼミ)

パートナーとの結婚、その後の生活まで展望したときに、ワークライフバランスや待遇、そして自分の能力や関心などを考慮して就職活動を進めました。納得のいく結果を得られ、あとはひたすら卒業研究。3年次から積み上げてきたフィールド調査の成果を、懸賞論文、そして卒業論文としてまとめました。



現在

2017年3月卒業
株式会社 セールスフォース・ドットコム勤務

人生は予想通りにはいかない、というのが今の実感です。高校生の私は、自分は教師になると信じてきたから。でも予想通りにはいかなくても、予測の精度を上げることはできます。そのために、授業やゼミで「現場から学べ」と言われ続けたことは、重要な経験でした。現場と専門学問を行き来することで、自分の特性や能力を理解し、働くことの中身も学びました。やりたいことだけでなく、自分の能力が評価される場や方法という視点も身につきました。ハードな学生時代のおかげで、落ち込んでもすぐに立ち直れる、予想通りにいかないことも楽しめるタフさが今の自分にはあります。結婚もした今、家族と共に生きていくことも含めたキャリアデザインを大学で学べたありがたみを実感しています。

施設紹介

On-campus facility information

富士見ゲート



2016年竣工の「富士見ゲート」。大講義室やカフェテリア、カフェがあります。旧校舎のコンクリートを再利用した落ち着いたデザインです。

外濠校舎



大教室、小教室など教室が多数ある大きな校舎です。サークルの部室などもここにありま

大講義室



大学では数百人の受講生がいる授業もあります。教室のあちこちにモニターが配置されています。机にはコンセントもありIT機器を利用する授業もたくさんあります。

小教室



ゼミなど少人数の授業を行うための教室です。

情報ルーム



キャリアデザイン学部専用の教室です。資料やパソコンが自由に使えます。またミーティングなどでもできる部屋です。

スカイホール



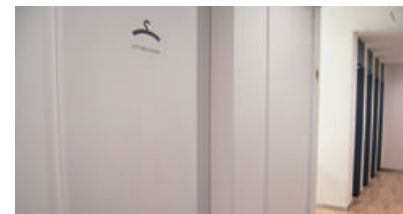
ポアソナードタワー 26階にあるホール。イベントやパーティーなどに使用されます。窓からはスカイツリーや武道館など、東京の風景が一望できます。

ラウンジ



ラウンジは学生が自由に過ごすことのできるスペースで、学内にたくさんあります。友人とおしゃべりしたり、授業の予習復習をしたりと、様々な使い方ができます。

フィッティングルーム



フィッティングルームが併設されているトイレもあります。ちょっと着替えたいときなどに便利です。

カフェテリア



学内には3カ所のカフェテリアがあります。安くてメニューも豊富。とても美味しいです。天気の良い日はテラス席でまったりできます。

カフェ



富士見ゲートのイタリアンカフェは、コーヒーを飲んだりスイーツを食べたり。潤いと癒しの空間です。

ポアソナードタワーから見た風景



ポアソナードタワーは26階建ての高層ビル。スカイツリー、東京タワー、新宿や六本木のビル群が一望できます。晴れた日には富士山まで見通せます。

屋上庭園



写真は富士見ゲートの屋上庭園。構内にはいつでも屋上庭園があり、天気の良い日はのんびりと過ごすことができます。

スタディールーム



学生の自習専用の部屋です。私語厳禁の部屋はとても静かで、集中して勉強することができます。

情報カフェテリア



多数のパソコンが設置されていて、勉強だけではなく、就職活動などにも有効活用できます。

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、権利の意識にめざめ、法律の知識を求める多くの市井の人びとのために、無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、なにものにもとられることなく公正な社会の実現をめざす「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来のこの精神を受け継ぎ、地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

その使命を全うすべく、多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく健全な批判精神をもち、社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、世界のどこでも生き抜く力を有するあまたの卒業生たちと力を合わせて、法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。